

令和2年度の研修のまとめ

1 全体

「子どもが主体的に学び合い、豊かな生活につなげる授業づくり (3/3)
～教育課程への反映を目指した、授業実践と単元・題材の振り返り～」

ア 研修目的

- ① 「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に基づく目標設定を実践し、理解を深める。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の視点及び授業レベルのDoを参考にした授業改善を行い、授業力を向上させる。
- ③ 単元題材の振り返りを行い、年間指導計画への反映につなげる。

イ 研修方法

- ① 「主体的に学び合い、豊かな生活につなげる」授業にするための工夫
 - ・ 各グループで「主体的に学び合う姿」「豊かな生活につなげるとは」の検討
 - ・ 指導計画の工夫、授業レベルのDo等を生かして、指導及び支援の手立て、教材・教具、家庭との連携等、各学部やグループで深める内容を検討
 - ・ 寄宿舎：「基本的な生活能力チェックリスト」の改善と実践、学校との連携
- ② 授業 (pdca)、単元・題材 (PDCA)、教育課程 (P D C A) の機能
 - ・ 授業の振り返りができるような指導略案の提案、実践
 - ・ 授業の振り返りを単元題材の指導計画に生かすシステムづくり、実践
 - ・ 単元題材の振り返りを教育課程に反映させるシステムづくり、実践

ウ 研修内容

- ① 指導案書式 (①題材開始時書式, ②略案書式, ③教育課程反映書式, ④研究授業書式) の作成
- ② 上記を用いた全校的な実践 (①②③)を用いた実践の試行及び, 32本の④研究授業指導案作成
- ③ 指導主事と各教諭との連携 (研修係への指導助言, 指導案へのアドバイス, 本校全体への指導助言)
- ④ 各グループのテーマに基づき, 工夫された授業研究会の計画と準備
- ⑤ 研究授業及び授業研究会 (授業をつくり語り合う会) の実施
- ⑥ 教育課程反映シートを用いた, 単元題材の振り返りと年間指導計画への反映
- ⑦ 指導主事との連携 (個別の指導案添削や係への指導助言など, 授業者や授業研究担当者一人一人に直接のアドバイスの場を設定, 講話等) 及び外部講師派遣事業を活用した講話等

エ 研修の実際

① 経過

	全体	小CD1・中CD1・高CDI・DII	寄宿舎
4月	今年度の研修について 指導案書式・授業レベルのDoの説明	・ 授業者, 単元題材決定 ・ 「語り合う会」学部計画検討	チェック リストの 改善
5月～ 7月	授業をつくり語り合う会関連 指導主事との連携 外部専門家による講話	グループ別研修 ・ 1学期実践 ・ 指導案執筆 ・ 語り合う会テーマ決定と実践	
8月		・ 各部, 指導主事と打ち合わせ ・ 指導主事による指導案の指導	
9月 25日	授業をつくり語り合う会 開催 研究授業・語り合う会 (授業研究, 研究協議)・指導主事による講話		
10月～ 12月	公開のまとめ 次年度テーマ検討	・ 授業公開を生かした実践, 教育課程への反映	
1月～ 2月	実践報告集「ひびき」整理 次年度テーマ検討	・ 今年度のまとめ	
3月	報告会		

② 指導案書式

① 単元（題材）開始時

〇学部 〇課程 〇年 〇〇科 学習指導案 〇〇グループ

1 単元（題材）名「〇〇〇〇〇〇」

2 本単元（題材）への思い～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

3 単元（題材）目標（詳細は単元終了後記入。目標全体の構成、〇一語構成、△適度で可）

全体目標	評価
ア	
イ	
ウ	

4 単元（題材）指導計画（全〇時間）

次	月	日	曜	時間	主な学習活動
一					
二					
三					

図 4 ①題材開始時書式

② 略案

〇〇部 〇課程 〇学年 〇〇科 指導案（グループ）

日時 令和 年 月 日（ ） 校時 場所 ナーフ

全体目標

時間 主な学習活動 指導及び実施の手立て（見通し・必然性・主役・実える・実感・つながり） 準備等

00:00 1 あいさつ

2 今日の学習

めあて：

00:00 3 活動

00:00 4 振り返り

5 あいさつ

（今後の単元題材の指導計画に反映できそうなこと）

（手立ての詳細欄【 】は授業録記入、手立てが変更、不要のため省略可。不十分は、追加▲）

図 5 ②略案書式

③ 単元（題材）終了後

〇学部〇課程〇〇科 教育課程反映シート

記録者（ ）

単元（題材名）	実施時間	学年・グループ

項目	評価・反省	検討/変更事項
単元（題材）名	適切/変更検討	
実施時間	適切/変更検討	
実施時期	適切/変更検討	
単元目標	ア 知識・技能	適切/変更検討
	イ 思考力・判断力・表現力	適切/変更検討
	ウ 学びに向かう力・人間性等	適切/変更検討
学習活動	適切/変更検討	
その他		
教科等部で検討や情報提供をしてほしいこと		

図 6 ③教育課程反映書式

●研究授業用 ○学年 ○期 ○科 学習指導要領

令和○年○月○日(○) ○校時
 ○○部 ○年 ○組 ○人
 場 所 : ○年 ○組 教室
 指導者: ○○○(姓) ○○○(姓) ○○○(姓)

1 単元(題材)名「○○○○○○」

2 本単元(題材)への思い～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

3 単元(題材)目標(詳細目標は単元終了後記入。目標全体の達成、○一部達成、△達成できます)

全体目標	評価
ア (知識・技能)	
イ (思考力・判断力・表現力)	
ウ (学びに向かう力、人間性の涵養等)	

4 単元(題材)指導計画(全○時間)

次	主な学習活動	時数
一		○時間
二		○時間
三		○時間(○時△分)
四		○時間

5 本時について(○/△)

(1) 全体目標(詳細目標は授業後記入。目標全体の達成、○一部達成、△達成できます)

全体目標	評価
ア (知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力、人間性の涵養等)	
イ (知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力、人間性の涵養等)	

(2) 対象児童(生徒)の個人目標(詳細目標は授業後記入。目標全体の達成、○一部達成、△達成できます)

児童	個人目標	評価
Aさん	ア (知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力、人間性の涵養等)	
	イ (知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力、人間性の涵養等)	
Bさん	ア (知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力、人間性の涵養等)	
	イ (知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力、人間性の涵養等)	

(3) 集積(手立ての研習)【 】は授業後記入。手立てが既知、不要のため省略せず○、不十分△、誤解▲

課程	主な学習活動	指導方法等の上で (意識し・必然性・主役・支える・援助・つなぐ等)		準備等
		Aさん	Bさん	
導入 ○分	1			
	2			
	3			
展開 ○分	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
結末 ○分	(1) ねらいを振り返る			
	(2)			

<今後の単元題材の指導計画に反映できそうなこと>(授業後記入)

図7 ④研究授業書式

③ 各グループの授業づくりテーマ及び研究授業

グループ	グループテーマ(語り合う会のテーマ)	研究授業
小C	低学年部 絵本の読み聞かせ ～あなたはどっち?デジタル vs. アナログ～	国語「えほんにしたしもう」
D	中学年部 主体的に学ぶための具体的な指導・支援	国語「えほんにしたしもう」
I	高学年部 実態差のある学習集団の授業の進め方	算数「数と計算」
中CDI	生活につなげる学び/他の教科・領域との関連/ 主体的・対話的な学びを実現するための工夫/ 授業設計と支援ツール・材料選定の工夫	数学「計算をして長さを調べよう」「測定をして作ろう」等 全12授業
高CDI	1年部 アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業づくり	国語「いろいろな言葉遣いや伝え方(2)」全13授業
	2年部 場面や状況に応じた言葉遣いの指導の手立てについて	
	3年部 将来を見据えた言語活動を養うための授業づくり～一人一人の実態に応じて、卒業後の生活場面ににつながる言語活動のための学習や授業展開を考える～	
DII	小学部1段階のねらいを達成するための図工・美術科の教科指導	小学部: 図画工作「ねんどであそぼう」 中学部: 美術「造形遊び1」 高等部: 生活単元学習「砂で遊ぼう」
寄宿舎	生活能力チェックリストの活用	

④ 指導主事との連携（県教育庁義務教育課特別支援教育室 新條嘉一指導主事）

- ・ 研修担当者との打ち合わせ（
- ・ 授業参観とアドバイス（7月15日）
- ・ 研修係との打ち合わせ（研修の進め方、語り合う会の各グループの方法への具体的アドバイス）（7月15日、7月31日）
- ・ 研究授業の指導案への指導（32授業）
- ・ 指導案全般に関する指導資料の提供
- ・ 授業をつくり語り合う会当日の講話・資料提供（9月25日）
- ・ 授業をつくり語り合う会后、小学部学部研修の講話・資料提供

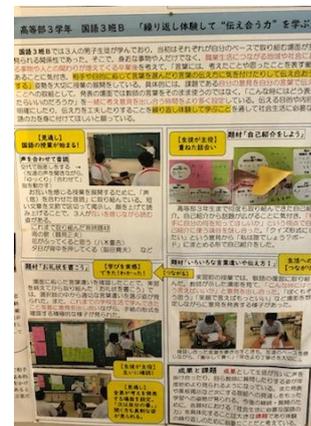


⑤ 外部専門家を活用した研修（鹿児島女子短期大学 児童教育学科 本田和也准教授）

- ・ 事前相談
- ・ DII課程への講話・質疑応答
- ・ 授業を作り語り合う会の参加、アドバイス（9月25日）

オ 成果

- ・ 資質・能力の三つの柱で整理した目標欄と授業レベルのDOを盛り込んだ指導案の書式を作成。授業公開以外の授業でも活用する場面が見られてきた。
- ・ 授業の導入における児童生徒へのめあての提示について理解が深まり、実践が増加した。
- ・ 多くの授業を行ったことで職員全体の自我関与が高まった。
- ・ 授業公開においては、各授業のテーマに基づいてポスターセッションやワールドカフェスタイル、ディベート等さまざまな形での授業研究や意見交換を行った。
- ・ 重複障害課程において、小中高でグループをつくり、教育課程の在り方検討や授業へのアドバイスなど、学部を超えたつながりを作ることができた。



カ 課題

- ・ 教育課程に反映させるシステムの検証や日常化には至らなかった。
- ・ 今年度の書式やシステム運営とその改善について、次年度以降は教務部の分掌業務として定着させていくことの共通理解を行う。